

■ 河内長野市南花台地区「丘の生活拠点」の形成に向けたまちづくり ■ 河内長野市・UR都市機構と連携協定を締結

～ 人口減少・少子高齢化が進む郊外団地の課題を産学官の特色を生かして解決！ ～

このたび関西大学は、多世代が住み慣れた場所で安心して快適に住み続けられるまち（スマートエイジング・シティ）の形成を目指し、河内長野市およびUR都市機構と幅広く連携・協力していくことで合意に達し、大阪府立会いのもと、2月20日に「南花台地区『丘の生活拠点』に関するまちづくり連携協定」を締結しました。

本協定は、人口減少及び少子高齢化が進む郊外団地の課題解決に向けた産学官の特色を生かした連携協定であり、単なる団地再編・集約にとどまらず、安全・安心・快適で愛着のある魅力的なまちづくりを目的としています。また、多世代の地域住民や地元企業・商店を巻き込んだ「公民学」の連携体制を構築していきます。

本学環境都市工学部・建築環境デザイン研究室（指導教員：江川直樹教授）は、2014年9月より同地区において、コミュニティ拠点「コノミヤテラス」の運営と仕組みづくり、地域の課題発掘・課題解決に向けたワークショップの開催等の役割を担い、今日まで地域に密着した活動を続けています。なお、本学では自治体等との連携を推進しており、自治体との協定は今回で20例目、自治体以外を含めると31例目となります。



協定締結時の様子（左から）

大阪府 山口 信彦 政策企画部長
河内長野市 島田 智明 市長
関西大学 芝井 敬司 学長
UR都市機構 西村 志郎 理事・西日本支社長

（河内長野市 島田 智明 市長 挨拶コメント）

南花台地区は市内最大規模の開発団地として整備されたが、近年は人口減少・少子高齢化が進んでいる。そのような中、関西大学がふれあいの拠点としてコノミヤテラスを365日オープンしてくれていることは、他の地域にはない取組みであり感謝している。本協定での取組みが全国的な成功モデルとなることを目指したい。

（関西大学 芝井 敬司 学長 挨拶コメント）

スマートエイジング・シティ形成の理念を三者で共有しながら連携活動を推進したい。建築環境デザイン研究室が取り組んできた佐治スタジオ（兵庫県丹波市）やだんだんテラス（京都府八幡市）での経験やアイデアを生かし、本学が歴史的に培ってきた地域連携の縁（えにし）を認識してまちづくりに邁進していきたい。

（UR都市機構 西村 志郎 理事・西日本支社長 挨拶コメント）

コノミヤテラスを中心とした先進的なまちづくりの活動に参画できることを感謝申し上げたい。人口減少という事実を受け止め、ハード面の整備のみならず地域のつながりを皆が協力して作りあげることが大事である。未来に向け、河内長野市・関西大学および地域の皆様とともに先進的・挑戦的な取組みを進めていきたい。

今後は、愛着のある魅力的な街並み形成の推進、安心・安全・快適に住み続けられる都市基盤形成の推進、南花台地区の持続性を高める機能導入の推進、地域資源を活かし多世代が健康で快適に暮らすための多様な連携と支え合いの仕組み構築の推進などに連携して取り組み、スマートエイジング・シティの実現を目指します。

以上

※当日の配布資料および写真をご入用の報道機関の皆様は、kouhou@ml.kandai.jp宛にご請求ください。

この件に関するお問い合わせ先

関西大学 総合企画室 広報課 担当：石田、寺崎

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35 Tel.06-6368-1131 Fax.06-6368-1266

www.kansai-u.ac.jp